

# 研究研修部だより

## 視覚障害教科教育研究会 千葉大会

8月5日(月)6日(火)に 2024 年度  
視覚障害教科教育研究会  
千葉大会が行われました。



8月5日(月)

1 講演「インクルーシブ教育時代の盲学校の役割」  
米国 カンザス州立盲学校 校長 Jon Harding

〔米国の盲学校〕

- 学校は、連邦法、州法、および地方自治体の法律やガイドラインに従う一方で、その運営については自主性を持っている。
- 学区は、個別教育プログラム (IEP) に基づいて、視覚障害のある子供たちに適切なカリキュラムを提供する責任を負っている。
- 盲学校は、個別教育計画に基づく教育を提供する上で重要なパートナーである。

- CHANGE is hard. 変化は容易ではない。
- DREAMS must be defined. 夢は明確でなければならない。
- ADAPTING is essential. 適応は必要。
- INNOVATION is necessary. 革新は不可欠。
- KNOWLEDGE is power. 知識は力。
- MOMENTUM is real. 原動力は真実。
- SHARING YOUR STORY matters. あなたたちの思いを共有することが重要。

2 講演「全国の視覚障害教育を取り巻く現状と課題」  
～どうする？盲学校の先生たち～

筑波大学附属視覚特別支援学校 校長 青木隆一

あなたはどのタイプ？

- A 視覚障害教育こそ我がライフワークと捉え、今の職場にやりがいを感じ、もっと勉強したいと思っている。  
B 視覚障害教育への関心はなかったが、人事異動で今の職場にやってきた。今では視覚障害教育の奥深さにふれ、頑張ってみようと思っている。  
C 本音を言うと、他の障害種や他校種の方が自分にあっているの、できれば異動したいと思っている。  
D 今の職場は他の学校に比べると、人数は少ないし、生徒は大人しいし、生徒指導も簡単だし、定時で帰れるし楽だ。異動はせずこのままずっといたいと思っている。

AかBであってほしい…  
CとD先生方はAかBになってほしい！

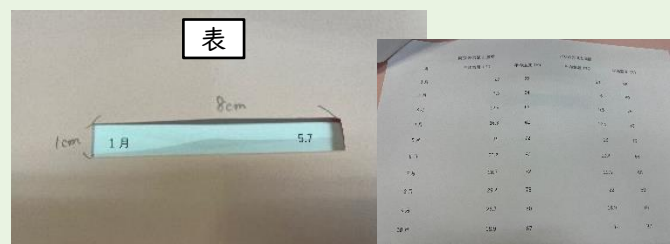
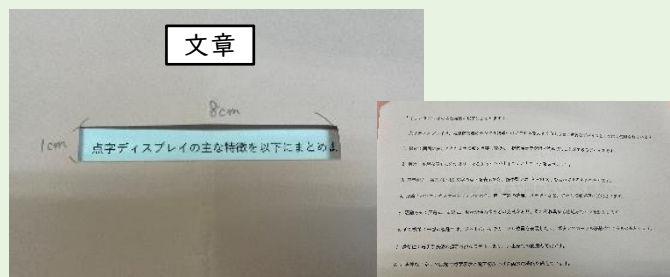
3 講演「盲学校で学んだこと・ICT の可能性と必要な概念」 NPO 法人 スラッシュ 山賀信行

千葉盲の部活動(和太鼓)を通して、人前で話す度胸や、世代を超えた人とのつながりを得ることができた。

AI への期待は高まっているが、例えばナビアプリを使用する際は距離の概念が、カメラアプリを使用する際はカメラの概念が必要になってくる。概念があれば自分の中でイメージを膨らませ、より安全に使用できる。不具合は進んで声を上げることが重要。

4 実践講座「点字ディスプレイから触る世界」  
筑波大学附属視覚特別支援学校 教諭 内田智也

触察の疑似体験：A3 画用紙の窓枠 (1cm×8cm) から原稿を読む。部分から全体を把握する。



8月6日(火)

1 実践講座「点字で学ぶ生徒への漢字・漢語の指導の実際」筑波大学附属視覚特別支援学校 教諭 濱谷和江

- ・日本語の文章を読むために、漢語の意味の理解は不可欠。
- ・漢字や漢語の指導は主に読解指導の中で行う。
- ・教員は、表音文字に置き換えながらその文章を読んでおくと、指導しておきたい語を「見逃す」おそれは少なくなる。
- ・点字を使用する児童生徒にとって、漢字・漢語の学習は、読解と表現のための語彙力をつけること。
- ・その学年相応の文章を読解でき、理解したことや考えたことを他者に伝えるために文章化できるようになるためのもの。

## 2 実践講座「弱視生徒に配慮した理科の観察・実験指導の実践」

筑波大学附属視覚特別支援学校 教諭 武井洋子

1. 目を近づけがちな危ない場面とその対策
  - (1) 細長いもの（スタンド等）  
→生徒の背丈より高くする
  - (2) 薬品の扱い（飛沫が目に入らないように）  
→保護メガネ着用
  - (3) 炎の扱い  
→炎の30cm上方に手をかざして調べる
  - (4) 解剖やなまものの観察の場面  
→触る観察を心がける。タブレット画像の利用。
  - (5) 実験環境の把握（全体像の把握）  
→空間的な把握、時間的な把握

### 2. タブレット画像利用時の注意点

- (1)（画像だけでなく）実物とともに利用する
- (2) できれば生徒自身に撮影させる
- (3) 断面であれば、その方向に切ってどちらから見た断面かを把握させる

### 3. 五感を用いる観察（筑波大附属視覚特別支援学校では、弱視生も全盲生と同じ方法で観察・実験を行っている）

- (1) 視覚に代わる感覚による観察
- (2) 多角的な観察
- (3) 「あ〜!」「なるほど!」のように、言葉が生まれる最初の感動を得る

## 3 実践報告「千葉県の視覚障害教育～拠点校・弱視特別支援学級・市町村教育委員会との連携～」

千葉県立千葉盲学校 視覚支援センター 小関川洋美

### 通級による指導

- ・視覚補助具の活用
- ・UDブラウザの活用
- ・見え方紹介シートの作成

上手な自己表現の道しるべ  
私の見え方紹介カード



第三版（デジタル版）  
日本弱視者ネットワーク

私の見え方紹介カードデジタル版～上手な自己表現の道しるべ～（日本弱視者ネットワーク）

[https://jakushisha.net/miekata\\_card.htm#text](https://jakushisha.net/miekata_card.htm#text)

## 4 実践講座「特別学級の授業実践 -『天井って何?』-」筑波大学附属視覚特別支援学校 教諭 佐々木望美

「天井」を知らなかった全盲児

1. びわの木は背伸びしても届かない→脚立との出会い
2. 教室にある天井を探す
3. 既習の学習から高いところを触って確かめる方法を考える
4. 実際に触って、確かめて、天井を知る

・重複障害児の指導では、児童の実態や評価から、教師が何を大切に思い、何に対して教育的に学ぶ意義があると感じたのかということが大きく影響する。  
※教師の独りよがりにならないよう、複数の教師の視点で児童を評価する  
・児童の言動から学び、常に自分の指導を振り返り改善する。

## 5 情報提供『初訂版 みんなの地図帳』の編集と活用」筑波大学附属視覚特別支援学校 教諭 丹治達義

### 実践例

- ・地形をしっかりとる
- ・地名を全部読む（地名読みテスト）
- ・地図帳をそのままノートとして活用する



### 特徴

- ・地図帳そのものに書き込んだりシールを貼ったりして活用できる
- ・地図帳の導入期（小学部）から高等部レベルまでの学習に対応している
- ・点字地図帳と基本的に内容が同じなので、点字・墨字が混在するクラスでの活用が可能（点字版は改訂中）

